

令和4年度 橋立小学校1年間のふり返り

学校教育目標

「心豊かにたくましく 自らの生き方を創造する 児童生徒の育成」

学校経営目標

- (1)授業改善のために主体的に研究・研鑽し、確かな学力の向上に努める。
- (2)温かで優しい心を育成し、互いの良さを認め合える人間関係づくりに努める。
- (3)基本的生活習慣を身につけ、健やかな体の育成に努める。
- (4)小中併設校の特色を生かした連携の取組を深め、学校・家庭・地域との連携に努める。
- (5)組織的・機能的な学校運営に努める。

令和5年3月発行
校長 紙井 かおる

橋立っ子

評価の項目	今年度の重点目標	中間評価	今後の改善策
①教育課程・学習指導	基礎的・基本的な知識や技能の確実な定着を図り、学力向上をめざす。	・スキルタイムの時間を使った計算や漢字の力をつける取り組みを続ける。学期末だけでなく、こまめに確認テストを行い、定着度を測れるようにする。また、スキルタイムのうち金曜日を学級裁量の時間とし、学年の定着度に応じた課題に柔軟に取り組めるようにする。	漢字・計算力テストによる定着度の確認において、全体的なパーセンテージは目標値を超えているが学習集団による差が顕著に見られた。個別の指導を含めた対応を行うと同時に、積み残しのないように朝学習、宿題にも課題を設定し年度末の達成度クリアを目指す。
	学習習慣の確立に努め、主体的な学習態度を育てる。	・児童による質の差がある。内容によっては字を埋めるだけの作業になってしまっている児童もいて、主体的な学習態度の姿からは遠いといえる。「粘り強く」課題に取り組む自主学習ノートの良さや取り組み方について教職員・児童全体で共有し、全校で取り組む。綺麗にまとめている自主学習ノートではなくても、自分の課題に対して粘り強く取り組んでいるかを、職員同士、教師児童間で話し合える空気を醸成する。その上で、さらに児童の意識を高めるために、自主学習の公開を行う。	「粘り強く」課題に取り組む自主学習ノートの良さや取り組み方について教職員・児童全体で共有し、全校で取り組んだ。児童も綺麗にまとめている自主学習ノートではなくても、自分の課題に対して粘り強く取り組むことができた。ノート整理の課題ではある一定のモデルケースを学びのメソッドにしていくことが課題でもある。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	学校全体でいじめの未然防止に努め、いじめのない学校づくりを推進する。	友人関係などで悩んだときに相談できないと答えた児童が二人いる。またQU調査の結果、友人関係が良好でない児童、自己肯定感の低い児童も若干見られる。今後も児童理解の会を充実させ、児童の悩みや困難さに適切な支援を継続して行っていく必要がある。	友達関係などの相談ができる児童が87%であった。13%の児童は相談したくてもできないことが多いと回答している。しかしそのなかでもほとんどの児童は相談できる人はいるのであるが、機会がないと回答している。今後はまず教師が相談できる1番目の大人になるために、児童理解を充実させ、対話を行っていく必要がある。まず学級経営の充実を図り、なんでも相談できる雰囲気を作っていくことが肝心となる。
	明るく、自分からあいさつができる子どもたちを育てる。	明るいあいさつが自分からできていると判断する教員がほとんどである。しかし、児童の中には自分からあいさつができていないという児童も若干いる。できたという満足感を抱けるような指導や企画を通して、あいさつの重要性をさせていきたい。	明るいあいさつができていると回答する教員が85%であった。他の学年の人にも進んで心を込めてあいさつしていると回答した児童も86%であった。児童会があいさつ運動をしたときには明るいあいさつはできるが、一時的であった。今後は、あいさつの大切さを大人が日常的に教えていくとともに、まず学校職員が明るいあいさつに努め、児童の模範になるような姿勢を見せていかなければならない。
③キャリア教育・進路指導	自己理解、自己管理能力を意識したキャリア教育を推進する。	本校では9年間のスパンでキャリア教育を捉えているが、「〇年後の自分を思い浮かべて」という視点を行事を中心とした様々な活動の中で網羅していきたい。	中学生の姿を見ながら学校生活ができる本校の特性を自己の振り返りや、全体の意識としてもっと高めていく必要があると感じる。
④保健管理	自ら進んで、健康なからだをつくらうとする態度を育てる。	早起きが苦手な場合は最終日まで〇がつかなかったりなど、苦手傾向が持続し、自己の生活習慣の課題を改善して行動できていない児童が多かった。生活態度をチェックする(管理する)ことが目的ではなく、〇がつかなかった生活習慣を課題と捉えて行動を変えていくことが目的であることを、教職員・児童全員で理解し、取り組むように職員会議及び全校集会で呼びかけする。	就寝時刻について、高学年になるにつれ遅くなっている。さらに、5日間の実施日中、3日間以上寝る時刻を守れなかった児童が25人もいた。同様に起きる時刻を3日間以上守れなかった児童も17人いた。就寝時刻・睡眠時間・起床時刻は生活リズムを作る上で重要と意識を高められるように、全校集会での教員からの呼びかけを行ったり、学校保健委員会のテーマに取り上げて考えるなど、元気アップ週間以外でも意識を高める機会を設ける。
⑤安全管理	安全教育を推進し、職員の危機管理意識と危機対応能力を高める。	保護者96.9%、教職員100%という結果になった。避難訓練を小中合同で行い、避難経路の確認や消防署員から指導を受けることができてよかった。また、保護者と一緒に交通安全教室や救命救急の講習を行うこともできたことで、安全に関するより意識も高まってきている。今後も意識だけでなく、実際にとっさの行動もいれるように計画的に訓練を行っていく。	保護者97.1%、教職員100%という結果となった。2学期は、不審者対応訓練と防犯教室を小中合同で行い、自分たちの身を守るための行動などについて共通確認し、児童の意識を高めることができた。教師に対しての危機管理に関する研修も年間を通して計画的に行っていく。
⑥特別支援教育	児童についての理解を深め、それぞれの児童の困り感が減るように支援する。	アンケート結果は85%であった。見通しを持って、提案することが課題と感じた。また、これからも困り感がある児童には必要に応じて外部機関とも連携し、担任だけではなく、職員全体で児童の支援を検討し、実践していく。	1年生を中心に、支援が必要な児童について支援会議を行ったり、専門相談を行ったりして専門的な面からも助言をいただくことができた。今後とも、情報交換を密にして早めの支援につながるように働きかけていく。
⑦組織運営・業務改善	業務の平準化をめざす。	アンケートの結果は75%となった。分掌によって業務の偏りが見られた。小中合同運営委員会で事前に提案段階で業務の偏りがいないか確認し、担当で割り振りを行っていく。	まだまだ一部のみに業務が偏りがちである。小規模校のため教師一人ひとりに対する業務の比重は重くなってしまうのは仕方がない部分でもあるが、小中合同運営委員会で業務内容の確認を行い、担当者が早めの提案を心掛け、提案の際の仕事の分担を適正に行うことで、業務の改善を行っていく。
⑧研修	「つきたい力」を明確にする授業づくり。	中学校と共通実践として取り組もうとした週一回の授業公開は、呼びかけの不徹底と参観するための時数確保が課題となり、十分に取り組むことができなかった。教務主任、中学校の研究主任とも相談し、授業公開ではない形で教師全体が「つきたい力」を明確にする授業改善を意識できる取り組みを提案する。	つきたい力を明確にした授業づくりについては、どの教員も授業毎に意識して取り組み、児童とねらいを共有することができていた。今後は話し言葉だけの発表に留まらず、図や絵、資料など視覚的な根拠をもって説明する活動を授業の中に取り入れるようにして、児童が主体的・対話的な学習を行えるように授業改善していきたい。
	計画的なOJTと若手層にとって有効な研修を実施し、人材育成を目指す。	年間計画に沿って計画的に実践できている。それにプラスし、実践の場でのアドバイスや気付きの共有ができていくということが今後の課題である。	年間計画は計画通り実施できている。一方、計画的なOJT以外の日常の中で若手層にとってスキルアップにつながるものが継続的にない事が課題である。
⑨保護者、地域と	地域の人材を活用した教育活動を推進する。	保護者89.7%、教職員70%という結果になった。コロナ禍の中で地域人材を活用することが難しくなっている。2学期以降は、教育課程の中に位置づけ感染対策をしながら積極的に地域人材を活用したい。	2学期は生活科や総合的な学習の時間を中心に地域人材を活用することができ、文化祭でその学習の成果を伝えることができた。しかし、保護者にその教育効果が伝えられていない部分がある。ICTを活用するなどして地域に積極的に発信していきたい。
⑩教育環境整備	ICT機器を活用し、児童が意欲的に活動できる教育環境の整備と教職員の業務改善を推進する。	アンケートの結果は83.8%となった。授業において積極的にデジタル機器を活用することは意識づけてきているが、事務的業務や業務改善という面では課題がある。業務内容を見直し、少しでもデジタル機器に移行していく。	ICTを活用した授業は全教職員が意識的にを行い、活用の仕方も工夫されている。今後は、授業改善の視点からICTをより有効に活用していきけるようにしていきたい。業務改善に関しては、来年度に向けてICTの活用を一層推進していきたい。

保護者の皆様の「アンケート結果」、児童の「アンケート結果」、教職員の「アンケート結果」をもとに、令和4年度の橋立小学校の学校経営目標の達成状況について検証しました。

また、その検証結果を学校評議員に報告し、評価していただきました。

橋立小学校の教育活動は、保護者の皆様、地域の皆様のご理解やご協力があったからこそよりよいものになると考えております。いただいた評価やご意見をもとに、できる限り改善に努め、教職員一同力を合わせて橋立の子どもたちのために頑張ってまいりますので、どうぞご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

学校関係者評価 (学校評議員の皆様からのご指導やご助言)

・保護者との連携は、地域の良さを生かし今まで積み上げてきたものがあると思うが、見直しも必要である。考えながら進めてほしい。

・義務教育学校になったとしても子どもは減少していく。よい学校と言っているが本校は何を強みにした学校にしたいと考えているのか、具体的にみんなが納得できるように計画性をもって進めてほしい。また、地域の人に行ったアンケート結果の報告をして、加賀市のニーズと意向を伝えてほしい。

・学校は一生懸命やってくれていると保護者は思っている。しかし、都会と田舎の様々なギャップを感じる。その格差をどう埋めていくか。橋立地区の発展のためにもこれからICTを活用した教育は益々重要になってくると思う。加賀市の進めるプログラミング教育は必要である。先生方にはどんな取り組みをしてほしい。

・橋立地区は高齢者が多い。福祉に携わった行事を行ってほしい。また、ボランティア活動(ゴミ拾い等)を一緒に行い、視野を広げて地域とかかわってほしい。



見守り隊の方への感謝の会



6年生を送る会



児童・保護者アンケート

- A ■ そう思う
B ■ どちらかというと思う
C ■ どちらかというと思わない
D ■ そう思わない

児童アンケート、保護者アンケートのそれぞれの第1回（1学期）と第2回（2学期）の結果を比較しました。
左から「そう思う」「どちらかというと思う」「どちらかというと思わない」「そう思わない」の順になっています。

令和4年度 橋立小学校 学校評価（児童・保護者アンケート）

1	学校に行くのは楽しいと思いますか	児童	1学期 2学期	
2	授業中に自分の考えをいろいろな方法で表現するようにしていますか	児童	1学期 2学期	
3	まわりの人に親切にしたり、優しくしたりしていますか	児童	1学期 2学期	
4	自分にはよいところがあると思いますか	児童	1学期 2学期	
5	平日に家でどのくらい勉強していますか (左から「学年×10分」以上・「学年×10分」・「学年×10分÷2」・「学年×10分÷2」以下)	児童	1学期 2学期	
6	学校の学習活動で、どのくらいICTを活用しましたか。「4・5・6年のみ」（左から毎日3限以上・2～3限・1～2限・1限未満）	児童	1学期 2学期	
7	平日どれくらいの時間テレビやネット動画を見たりコンピューターゲームをしたりしますか。（スマートフォンも含む）（左から・4時間以上・3～4時間・2～3時間・1～2時間・1時間未満・全く見ない）	児童	1学期 2学期	
8	かめさんノートを1週間に何日ぐらいで来たか 毎日・4～6日・2～3日・0～1日（1学期） 授業の中で「できた」「わかった」と感じたことがある（2学期）	児童	1学期 2学期	
9	明るいあいさつが自分からできましたか	児童	1学期 2学期	
10	友達関係などで悩んだときに相談できる人はいますか(左から何でも たいていのことは できないことが多い 全然ない)	児童	1学期 2学期	

比較結果からの考察

※「そう思う」「どちらかというと思う」を肯定的評価と判断しています。

＜児童アンケートに対して＞

○全体的に肯定的評価の割合が85%を超えている項目が多く、概ね良好な結果と言えます。特に1の「学校に行くのが楽しい」や3の「まわりの人に親切にしている」という回答は大変よい結果で、子ども達が安心して学校生活を送っていることが分かります。その反面、4の「自分にはよいところがある」という項目は90%を超えていません。様々な教育活動を通して子どもたち一人ひとりの良さをのばし、自己有用感を高めるようにしていきたいと思えます。

○10の「友達関係などで悩んだときに相談できる人がいる」については、約1割の児童が、相談できる人がいないという回答をしています。この結果をふまえ、これからの子ども達の悩みに寄り添い全員が安心して学校生活を過ごせるよう、保護者の皆様と協力しながら子ども達を育てていきたいと思えます。

○3時間以上テレビやネット動画、ゲームなどを行っている子どもが46.5%以上という結果が出ました。コロナ禍でPCを活用する機会が増えてきています。それに伴い、家庭学習の時間が減ってきているというアンケート結果も出ています。学年に応じたICTの効果的な活用を指導するだけでなく、ネットトラブルに巻き込まれたり、ネット依存を防いだりするための指導も重点的に行っていきます。

＜保護者アンケートに対して＞

○今年度もコロナ禍で、学校活動や行事、PTA活動などで様々な制約がかかる中で行われましたが、ほとんどの項目で90%以上の方に肯定的評価をいただいております。日々本校の教育活動にご理解とご協力をいただいていることに心より感謝申し上げます。しかし、その中で「学校は地域の人材を積極的に活用し、児童の教育により良い効果を上げていますか。」に関する項目が他の項目と比べて低かったです。今年度は「ヒラメの放流」や「町探検」等地域の方と触れ合う活動も多かったのですが、文化祭の内容や「土練り節」に関して保護者の皆様に趣旨をしっかりとご理解するための周知が足りなかったことが一因と思われます。来年度から導入されますコミュニティースクールの中で地域の方のご意見もお聞きしながらよりよい教育活動を保護者の皆様にもご理解いただけるようにしてまいります。

○保護者の皆様のご意見には励ましの言葉が多く、教職員一同とても励まされました。子どもたちのよりよい成長のためには、様々な面において、今後とも学校・家庭・地域が、連携を強化していきたいと思えます。

○来年度からは、コロナ前の学習活動も増えてくるかと思えます。皆様のご協力を仰ぎながらより良い教育活動を行ってまいりたいと思えます。よろしくお願いいたします。

①	お子さんは、規則正しい生活をしていますか	保護者	1学期 2学期	
②	お子さんとコミュニケーションをとるように心がけてますか	保護者	1学期 2学期	
③	各種便りやホームページ等で、学校の様子がよくわかりますか	保護者	1学期 2学期	
④	子どもたちは落ち着いて授業に取り組んでいると思いますか	保護者	1学期 2学期	
⑤	学校は、事故等がないように安全に配慮していると思いますか	保護者	1学期 2学期	
⑥	地域の人材を積極的に活用し、児童の教育により良い効果を上げていると思いますか。	保護者	1学期 2学期	
⑦	学校のいろいろな教育活動に満足していますか	保護者	1学期 2学期	